

ライブラリー・スケッチ

「新着図書コーナーと『京都関係』図書コーナー」



新年度になり図書館を初めて利用する方も多いことと思います。今回は1階カウンター前のコーナーを二つ紹介します。最初は新着図書コーナーです。名前通り新着図書はここへ配架されます。入ったらすぐ左側にあるこの書架のチェックから始めてみてはどうでしょうか?何か新しい発見があるかもしれません。次は「京都関係」図書コーナーです。ここには祭や年中行事、神社やお寺、伝統工芸品の他に人気のあるレストランやショッピング・ゾーンなど京都を紹介する本が集めてあります。どちらのコーナーも新しい発見の宝庫です。

絵・文とも 石浜 由衣 (2009年度英米語学科卒業生)

図書館利用案内

4月のピックアップコーナー

「香 り」

小澤 文彦

丁度3年前に公開された映画『パフューム』は「その香りに世界はひれ伏す、衝撃のサスペンス超大作」という謳い文句で話題作となりました。この映画の原作はパトリック・ジュースキントの『香水:ある人殺しの物語』です。1985年にドイツで発表され、瞬間に全世界で驚異的なベストセラーを記録した禁断の小説。天才的な調香師が殺人を犯してまで理想の香りを追求し、究極的な香水を創り出すといった奇想天外なストーリーです。

人間はいつから香りを求めるようになったのでしょうか?ツタンカーメン王の棺の傍にあった副葬品の香水壺は、開けると3000年以上も前の香りを保っていたそうですし、女王クレオパトラは体から香りを漂わせてシーザーを魅了したと言われていました。イエス・キリストがベツレヘムで生まれた時、輝く星に導かれて礼拝に訪れた東方の三博士は、黄金と共に乳香、没薬といった高貴な香料を捧げたことが聖書に記されています。香りと深い関係のある歴史上の人物と言えば、他に暴君ネロ、エリザベート、カテリーナ・デ・メディチ、マリー・アントワネットなどの名前が挙げられます。日本では、飛鳥時代に仏教に伴って沈香が伝えられ、香りとの関係が始まりました。奈良時代後半以降になって、部屋や衣服に香を焚きしめる習慣ができあがり、室町時代に香りの作法が体系化されて香道が発達しました。現代では、自分の好きな香りを簡単に手に入れることができますが、趣味や癒しで香りを楽しむ際、また香りが扱われた小説を読む時など、このコーナーの本が背景知識の拡大に役立つことを願っています。

おざわ ふみひこ (係・情報サービス課)